

令和5年度ぴ〜ぐ〜♡会 第1回座談会 10月29日(日)14~15時 オンライン(zoom)

今年最初のぴ〜ぐ〜♡会座談会は「ドキ土器！遺跡発掘の魅力を語る」と題し、実際に遺跡の発掘現場で作業いただいている調査員・作業員から、福島市の発掘現場の生の声を「掘る女 縄文人の落とし物」の**松本貴子監督**と一緒にお聞きしました♪

まずは今年8月に西久保遺跡で出土した木簡についてご紹介。木簡発見時に現場にいた野崎さんに感想を伺いました。「ただの木片だと思い泥を取ったら文字が出てきた。まさかこんな大ごとになるとは！」と驚いたとのこと。



松本貴子さん



↑ 松本監督の映画『掘る女 縄文人の落とし物』はこちら！



↑ 松本監督お気に入りの土偶紹介！私物のレプリカを見せていただきながら、ハート型土偶の魅力を伺いました♪



作業員 作業員 調査員
目黒さん、野崎さん、江尻さん

続いてこれまでの発掘現場で印象に残ったことや、エピソード、面白いお話を伺うと…

(野崎さん)「出土してすぐの遺物は取り上げてはいけないのに、いざ発見すると嬉しくなって取り上げちゃう。(そして怒られる。)」

(江尻さん)「塩ビ管だと思った破片を調査員に見せたら、旧石器時代の遺物で、調査員の顔色がどんどん青くなった。」

などなど、思いもよらないエピソードを聞くことができました。

松本監督から「発掘した遺跡は最後また埋め戻してしまいますが、『寂しさ』や『むなしさ』は感じたりしますか？」と質問が。

調査員の江尻さんは「長いと半年以上掘り続けているので、『やっと終わった』という気持ちが大きいです」と答えていました。